

— 古墳時代の玉作り集団 —

かねがもりにし 金森西遺跡（守山市金森町）

発掘調査では、古墳時代前期のムラと、その近くを流れる川跡が見つかりました。川跡からは、多量の土器とともに、「滑石」や「緑色凝灰岩」と呼ばれる石材で作られた石製品が数多く出土しました。

少し暗い色をした滑石製品には、勾玉や管玉、白玉、まじないに使われたと考えられる剣や鏡を模造した小型品などがあります。一方、薄い緑色をした緑色凝灰岩は管玉に限定され、製作途中の破片や失敗品が多く出土しています。緑色凝灰岩は日本海沿岸地域で産出され、滋賀県内では産出されない石材です。近江において、この2種類の石材を用いて玉作りを行っている最初期の事例で、この地に石材が運び込まれて加工し、周辺に出荷されていたと考えられます。



滑石製品



緑色凝灰岩製の管玉関連石材

— 雅やかな“お道具” ~お雛さまを見ると…~ —

しおつこう 塩津港遺跡（長浜市西浅井町塩津浜）

塩津港遺跡は琵琶湖の最北端部にあります。平安時代後半の神社と港を中心とする遺跡で、神像のほか、檜皮や瓦などの建築部材、幣串・しめ縄・灯明などの祭礼具、飾り金具、土師器皿、起請文札、荷札木簡など、多くの貴重な資料がみつっています。

この中に、いくつかの“お道具”があります。平安時代の“お道具”を知るのに参考になるのが、お雛さまの持ち物。姫様は扇を持ち、三人官女はそれぞれ島台・提・銚子を持っています。

塩津港遺跡からは扇、酒を入れる提・銚子がみつっています。いずれも生活の道具や儀式の道具として使われるもので、当時の厳かで雅やかな様子が偲べれます。



扇（薄い板を重ねて下方をとじている。）

— 海を渡ったガラスのアクセサリー —

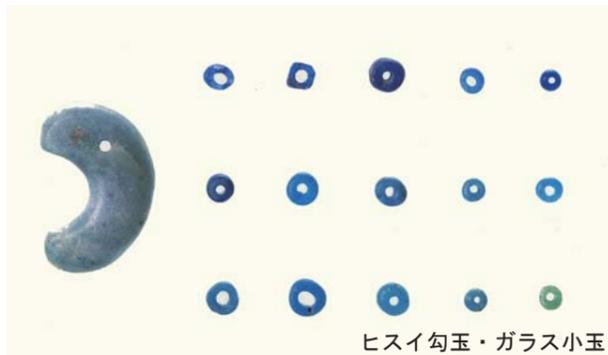
かみごてん 上御殿遺跡（高島市安曇川町）

上御殿遺跡は、青井川の河川改修事業に伴って平成20～26年度にかけて発掘調査を実施し、縄文時代から室町時代にかけての遺構や遺物を確認しました。

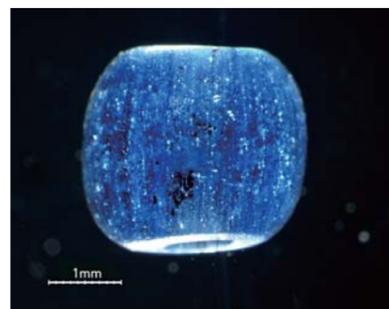
調査では、古墳時代（1400～1550年前）の墓が2基見つかりました。埋葬施設に納められた木棺からは、ガラス小玉を使用した装身具がいくつも出土しています。

古墳時代のガラス小玉は、南インドや西アジア、中国などの海外から輸入されたものが、主に確認されています。

綺麗な青色のガラス小玉は、当時の人々にとっても美しいアクセサリーだったのでしょう。



ヒスイ勾玉・ガラス小玉



ガラス小玉顕微鏡写真

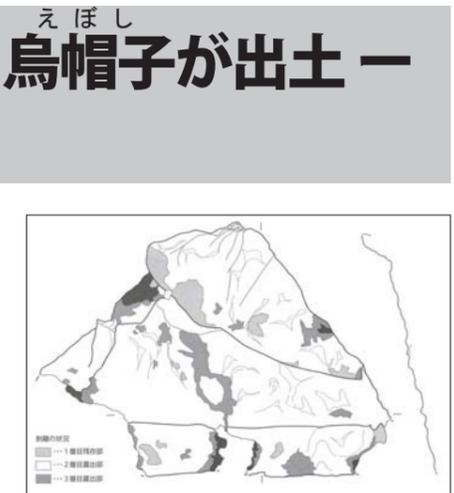
— 中世男子のおしゃれの基本・烏帽子が出土 —

おおいしじょう 大石城遺跡（大津市大石）

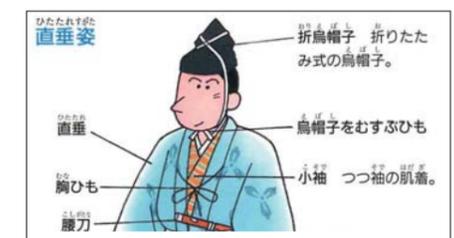
一級河川大石川河川改修事業に伴う発掘調査で、烏帽子が出土しました。烏帽子は平安時代生まれのかぶり物で、その着用は一般的な成年男子の証とも言われていました。時代劇などでよく見かけますが、実物は超レアもので、伝世品は少なく、発掘品も全国で十数例しかありません。

今回の出土品は〈折烏帽子〉と呼ばれるタイプで、中世後半の室町時代（14世紀）のもので、これまでの発掘品に比べて残りが良いので、製作技法の解明にも役立ちました。

詳細に観察すると、まず苧麻製の二枚の薄い布を袋状に貼り合わせ、それを黒く着色していました。それに平織りの絹を漆で貼りつけ、漆が固まってしまいう前に、好みの形に加工して、〈折烏帽子〉にしていたことが判明しました。



今回の発掘で出土した烏帽子



烏帽子着用例
『調べ学習に役立つ図解日本の歴史3』
あかね書房 1996